

まちかど 特派員のページ



こうかまちかど特派員
たかい たかこ
高井 貴子

でも素敵
たのでこ
わいかつ
茶碗がか
どものお
席にいた子
ます。隣の
をいただけ
たのご飯
無料で炊き
入すると、
飯茶碗を購
会場で販売さ
入ると、
無料で炊き
たのご飯
をいただけ
ます。隣の
席にいた子
どものお
茶碗がか
わいかつ
たのでこ
でも素敵



▲土鍋の中をのぞく来場者

この日、おくどの火加減を調節していた福山淳さんに話を聞くと、「最初の頃は失敗もしたけど、今は気温や風がどうなっているかも、おいしいご飯が炊ける自信がつかまりました。」と胸を張ります。「ご飯もすぐに炊き上がり、行列に並んで待っている間も炊き立てのおいしい匂いがたまりません。いただく順番が回ってくると、炊き立ての新米ご飯の上にお焦げものせてもらいます。おかずも日野菜の漬物、ゴーヤの甘草煮、ためきみそ、きんぴらごぼう、奈良漬、こんにゃくの煮物、万願寺唐辛子とじや炊き上げなどたくさんあります。どれをごはんのお供にしようか目移りしたので、好きなおかずを何種類もご飯の上のせていただきました。



▲ご飯の上に、おかずがいっぱい



▲絵付けした植木鉢の展示

お気に入りの器で ご飯をいただく幸せ

「土の手」プロジェクト「おくど飯」は、「お気に入り」の器で「ご飯をいただく幸せ」をテーマに、信楽焼の土鍋（羽釜）を使って薪の炎で「ご飯を炊き上げます。「おくど」とは、かまどのことで、まちなか会場の一角に手作りの「おくど」が設置されていました。

自分が使っている「飯茶碗を持参するか、会場で販売されている陶芸作家が作った「飯茶碗を購入入ると、無料で炊きたのご飯をいただけ

炊き立てのご飯におかずがいっぱい

3年に一度開催される信楽まちなか芸術祭は、10月1日から会期中の23日間にわたり信楽町内7つの会場で盛りたくさんの催しが行われた楽しいイベントでした。その中のひとつ、「土の手」プロジェクト「おくど飯」に参加しました。

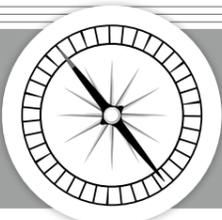
なお茶碗ですな」と声をかけたところ、お母さんの手作り茶碗でした。

まちなか会場散策



▲炊き立てのご飯をいただく来場者

信楽の器であつたかくいおもてなし



地域市民センター 東西南北

秋祭りだ おみこしワッショイ

「鮎川地域市民センター」



▲荒木真子プロ棋士を招いて開催された囲碁教室

地域で創る土曜日 「夢の学習」 【綾野地域市民センター】

今年度から毎週土曜日の午前中に、水口中央公民館を会場として「夢の学習」が開催されています。小・中学生、親子を対象に、生活文化体験・自然体験・社会貢献活動などができる場として多種多様な教室が開催され、毎週多くの地域の方が参加されています。プロ棋士を招いての囲碁教室や将棋やけん玉の体験教室など、地域のみんで知恵を出し合い工夫して開催する教室に、参加者は目を輝かせて学んでいます。

秋祭りが10月15日、三上六所神社で催されました。この祭りでは毎年、秋の収穫を神様に感謝するために、神輿が地域内の隅から隅まで練り歩いた後、地域の子どもから大人までが参加して奉納相撲が行われています。小学校が休校になり、普段は、子どもの声が少ない静かな鮎川地域ですが、この日は、他地域から応援の子どもたちも駆けつけ、鮎川の子どもの元気な掛け声が笛の音とともに地域に響き渡りました。



▲掛け声をかけながら神輿をひっぱる児童

花いっぱい笑顔いっぱい 【佐山地域市民センター】

佐山小学校で、全校児童が自ら育てた満開の花壇前で給食を楽しむ「お花見給食会」が行われました。これは、同校が昭和55年から参加している「フラワー・ブラボー・コンクール」がきっかけで、毎年春と秋に行う年中行事となっています。

今年度の花壇は「幸せの鳥」というテーマで、滋賀県教育委員会賞を受賞しました。全校児童が協力し、大切に育て上げた花壇を囲んでの給食は、学年の枠を超えて人間関係を深めるとともに、努力のあとの感激を分かち合う学びの場となっています。



▲花壇を囲んでのお花見給食

野田区の歴史に触れる

「甲南中部地域市民センター」

甲南中部自治振興会の事業で「中部学区の地域史を作成しています。事業を進めていく中で一番の発見は、45年ぶりに見つかった「道標」です。事業の成果を広く知っていただく事を目的として、「野田歴史文化祭」を開催し、道標の展示もされました。来場された方は、初めて目にする村の歴史や懐かしい写真などに目入っておられました。自分たちの地域の歴史にふれ、ふるさとを愛し、良さを知ること、これからの町づくりにつなげていく良い機会になりました。



▲45年ぶりに見つかった野田おくらの「道標」